

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200620		
法人名	社会福祉法人むべの里		
事業所名	グループホーム厚南		
所在地	宇部市黒石北4丁目5番39番		
自己評価作成日	平成29年11月28日	評価結果市町受理日	平成30年6月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとり担当があり、個別対応に努め、出来る事を見守り、出来る事を少しでも長く継続できるように支援している。看取りの経験もし、ご家族の協力を得ながら、最後まで馴染みの環境の中で過ごしていただくように努めている。職員の意識向上などに向けた勉強会を開催している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が自治会に加入しておられ、総会には法人職員が出席され、地域の運動会には利用者と職員と一緒に参加されています。併設施設合同で餅つき大会を開催され、地域の人々を招待しておられます。利用者は毎月1回の併設サービスセンター行事に家族と一緒に参加されて、知人や地域の人たちと交流されています。ボランティアとして高校生が窓ふきの掃除に来訪されたり、茶道の先生による2カ月に1回の茶会の開催をしておられるなど、利用者が地域住民と身近に交流が出来る場づくりに取り組んでおられます。美術に興味のある利用者に細やかに表現されたぬり絵の下絵を準備され、仕上がった作品をリビングに飾られたり、コーヒーを生活の中で楽しんおられた利用者、自身でコーヒーを入れてもらってみんなに飲んでもらって楽しめるなど、利用者の好きな事やしたいことなどの把握に努められ、実現できるように取り組んでおられます。家族は運営推進会議後の食事会や月1回の行事の他、年末の清掃や居室の整頓など頻回に来訪しておられ、利用者が安心して居心地良く過ごされるために家族と職員が協力されて支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族にも伝え、全職員と共に考え、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示している。申し送り時に職員間で唱和している他、会議やケアカンファレンス時に話し合って確認し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、月1回の高校生を招いての園芸教室参加。併設のデイサービスでの敬老会や催しに参加して地域とのつながりを続けられるよう努めている。	法人が自治会に加入し、総会には法人職員が参加している。利用者は地域の運動会に参加している。併設施設合同の餅つき大会や併設のディサービスセンターの月1回の行事（高校生の園芸教室、敬老会、大学生によるクリスマス会、会社員による歌やダンスなど）に参加して、利用者は家族や馴染みの知人など地域の人と交流している。ボランティア（隔月のお茶会、養護学校生徒や家族による清掃作業等）の来訪がある他、家族から菓子や干し柿用の柿などの差し入れがあるなど、利用者が地域の住民と身近に交流できる場づくりに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	努力中、認知サポート養成講座時の見学場所提供。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	研修を行いたいと課題を掲げ、月1回は施設全体での働き方の指針。接遇指針の研修に参加している。	管理者や計画作成担当者は、職員に評価の意義を説明し、月1回の会議の中で職員で話し合い管理者がまとめている。前回の外部評価の結果を受けて、自主的に研修に参加することを目標達成計画に掲げ、研修を毎月実施することで「法人の働き方の指針」の研修に取り組んでいる。	・全職員による評価の意義の理解と活用

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご家族にも報告し、意見も取り入れてサービスの向上に努めている。	会議は年6回開催し、利用者の活動状況、事故・ヒヤリハット報告、外部評価結果報告、年間行事予定などの報告や話し合いをしている。昼食会や家族交流会と同日に行うなどの工夫をして、家族の参加は多いが、地域からの参加者は少ない。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議時に話し合っているほか、直接出向いて相談したりしている。	市担当者とは、運営推進会議時の他、電話や直接出向いて、相談をして助言を得たり、情報交換をしているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、事例相談や情報交換を行い連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は玄関は施錠、併設施設との行き来は可能である。身体拘束に何が当たるのかを職員全員で理解し、抑制や拘束をしない介護に努めている。	職員は、法人研修や内部研修で学んでいる他、身体拘束防止のチェックリストを活用して身体拘束の内容や弊害について学んでいる。玄関は施錠しているが、併設施設内とのつなぎ廊下を解放している。外出したい利用者には、職員と一緒に出かけている。スピーチロックについては、気がついた時には職員でお互いに注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は接遇指針の研修中でも必ず学び、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は今後していく予定。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と入居者様のご家族の不安や疑問点は、その都度対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見を反映するように努めている。	苦情申し立て窓口、担当者、外部機関、第三 者委員を明示し、苦情処理手続きを定めて、 契約時に本人や家族に説明している。面会 時や運営推進会議参加時、家族交流時、毎 月の併設施設行事への参加時などに家族の 要望を聞いている。家族から看取の希望が出 ており、職員の研修などに力を入れているな ど、反映させるように取り組んでいる。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談以外にも、職員の意見を聞く機会 を設けている。	月1回のグループホーム会議時や半年に1回 の管理者との個人面接時に職員の意見や提 案を聞く機会を設けている他、日常業務を通 して職員の意見や提案を聞いている。常勤希 望を聞いたり、勤務体制の要望や休憩時間を 設ける事など、職員の意見や提案を反映させ ている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	職員面談を行い、各自が向上心を持って働 けるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	外部研修は職員に情報を伝え、希望に応じ て受講の機会を提供している。法人内の研 修は参加している。	外部研修は、職員に情報を伝え、職員の希 望や段階に応じて受講の機会を提供してい る。法人研修は、年2回受講している。毎月の 拠点施設研修(自立支援、ケア向上と評価、 地域密着型サービスの末期ケアと看取り、認 知症の理解、身体拘束、接遇働き方十か条 など)に職員は参加している。内部研修は、 移乗や看取りのケア、観察の方法などを看護 師や理学療法士からの指導で、学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	県内の研修会などに参加し、職員の情報交 換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとりの状況に応じた、対応に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	中々ご家族の本音を聞くことは難しいが、関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりの状況に応じた、対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事を見つけて職員と共に過ごしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が職員が介護をゆだねているということもある。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご親戚及びご友人の面会で来園された際、居室にご案内し談笑して頂いている。また外出や外泊などの機会をもたれるように働きかけている。	家族(子供、孫、ひ孫)の面会や親戚の人、知人、兄弟の来訪がある他、電話や年賀状での交流を支援している。家族の協力を得て、実家付近へドライブ、馴染みの店での食事、一時帰宅、外泊など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方々や利用者様同士の関係づくりに心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アンケートや、日常の関わりのなかでの入居者様の行動や会話の内容を介護記録に記録し、その中から本人の思いや意向把握して、ご本人主体に努めている。	入居時に本人に対してセンター方式を利用したアンケートを実施し、アセスメントシート(暮らし方、長年馴染んだ習慣、好み、願いや支援してほしいことなど)に記録している他、日々の関わりの中での利用者の希望や言葉、行動を細かく介護記録に具体的に記録してカンファレンス時に話し合い、思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に聞き、少しずつ努力している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症状が進みつつある方もおられるが、出来る事を見つける努力をしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの意見はなかなか聞けないが、随時職員同士で話し合っている。カンファレンスやアセスメントを行い介護計画に反映させている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって月1回、ケアカンファレンスを行ない、本人や家族の思い、主治医等関係者の意見を参考にして、職員間で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを実施し、サービス計画評価表に書き込み、6ヶ月毎に計画の見直しをしている。本人の状態や要望に変化が生じた場合はその都度、見直し現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報共有をしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時職員同士話し合い、柔軟な支援に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所への挨拶、声掛けを行っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医として受診の支援をしている。希望に応じて皮膚科や歯科の訪問診療も受けることができる。	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医とし、他科受診も含めて家族の協力を得て受診支援をしている。協力医療機関は、月2回の訪問診療がある。皮膚科と歯科も必要に応じて訪問診療を受けることが出来る。受診結果は介護記録に記録し、家族には電話で連絡をして共有している。協力医療機関の看護職員が2週間に1回、健康観察を実施し、緊急時の対応も行い、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週で訪問して頂き、連携を取っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は地域連携室の相談員の方と密に連絡を密に行い、病状の把握に努め退院に向けて関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」をもとに、事業所で出来る対応についての説明をしている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を基に、契約時に本人や家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族と相談し、主治医や看護師等関係者の意見を参考に方針を決めてチームで支援に取り組んでいる。この1年間、利用者や家族の意向で看取り介護を実施している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	発生時には事故報告書・ヒヤリハット報告書を記入している。全職員に回覧を行い、内容を共有している。	発生時にはヒヤリハット報告書、事故報告書に発見者が場所、状況、予防策を記録し、申し送り時に話し合い、全職員に記録を回覧して周知している。月1回のグループホーム会議で再度検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署主催の救命救急法やAED使用方法の研修を受講し、事故防止のための方法を修得しているが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言えない。	・全ての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の消防署の協力を得て、併設との合同総合訓練に参加している。	年3回、消防署の協力を得て併設施設合同で実施している昼間の火災、地震災害を想定した総合訓練に参加している他、事業所として年1回、夜間の火災・地震を想定した通報・避難・避難経路の確認・消火器の使い方などを、利用者も参加して実施している。非常用食品は備蓄しているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	働き方の指針や接遇指針の勉強会を実施し、入居者様の人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉掛けと支援を行っている。	「働き方の指針及び接遇の指針」を基に研修を行い、職員は利用者一人ひとりの自尊心を傷つけずプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。年に1度、人事効果として自己評価をしている。個人情報の取り扱いに留意し守秘義務は遵守している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の表情やペースに合わせた対応で接している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、ご利用者様の想いに寄り添える支援に努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御利用者様の希望を伺いながらも、季節を意識しての装いを支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、法人からの配食で盛り付けやお茶くみ、下膳や食器拭きなどを会話を楽しみながら行っている。	法人からの配食を利用している。週1回の昼食は利用者の好みを聞いて、献立を立て、新鮮な食材を使って事業所で調理している。食べやすいように形状の工夫をしている。運営推進会議時は家族と一緒に昼食を食べるようにしている。利用者は野菜を切る、ご飯をよそう、盛り付け、お茶くみ、配膳、下膳、食事の挨拶、食器を洗う、食器を拭くなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は一緒にのテーブルで同じ料理を食べ、会話を弾ませながら食事をしている。利用者がコーヒーをいれたり、豆腐を混ぜてつくった白玉団子、季節の行事食(ちらし寿司、ソーメン流し、餅つき、皮をむいて干し柿づくりなど)など、食事を楽しむことができるように支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし、利用者様一人ひとりの状態に応じた必要量に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様一人ひとりに応じた口腔ケアを施行している。月1回、歯科往診を受けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄サイクルに合わせ、時間を確認しながら入居者様一人ひとりに声掛けや誘導でトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに応じた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状況に応じた、対応に努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	14時から毎日入浴を行っている。入居者様の状況や状態によりシャワー浴や清拭などの対応を行っている。	入浴は毎日、14時から16時までの間可能で、順番や湯加減、歌を歌う、昔話をするなど利用者一人ひとりに応じた対応をしている。入浴したくない人には、無理強いすることなくゆっくり待ったり、利用者自身が入浴した日にカレンダーにしるしをつけることで利用者が入浴日を決めてすすんで入ったり、利用者に合わせて言葉かけに工夫している。利用者の状態に合わせてシャワー浴、足浴、清拭、部分浴等で対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の睡眠パターンを大切にしている。体調に応じて日中は昼寝や休息が出来るように心掛けている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬の目的と副作用を把握し、症状の変化に対応出来るように心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵を楽しまれたり、DVDの歌と一緒に歌われたり、パズルが好きな方は完成に夢中になれるなど、一人ひとりの状況に応じた、対応に努めている。	ほうきで掃く、カーテンの開け閉め、洗濯物（干し、取り込む、たたむ、しわ伸ばし、居室に持ち帰る）、布団カバーの交換、シーツの交換、干し柿づくり、野菜を切る、ご飯を装う、箸や食器を並べる、食事の挨拶、食器を洗う、食器を拭く、コーヒーの好きな利用者がコーヒーをいれる、花瓶の水替え、花を生ける、テレビやDVD視聴、広告を読む、新聞や雑誌を読む、音楽を聴く、歌を歌う、美術に興味のある利用者と一緒にぬり絵を楽しむ、しりとり、などなど、散歩、ラジオ体操、ふきんを洗う、節分、手先を使う作業、ストレッチ体操など、利用者のしたいことやできることを把握して、活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外の散歩や外食などで外資津の支援を行っている。ご家族の協力を得ての受診、外出、自宅に帰られ、友人や親せきの方々に合われるなどの支援を行っている。	周辺の散歩、季節の花見（桜、バラ）、ドライブ（江汐公園、自宅周辺など）、初詣、家族の協力を得て、買物、外食、一時帰宅、外泊、葬儀への参加、寺参り、祭りなど、利用者一人ひとりの希望に応じて出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、電話の取り次ぎや、年賀状を送るなどの支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度・湿度、換気に配慮している。利用者様の作品を掲示し、いつでもご利用者様やご家族様をご覧になられるように工夫している。	共用の居間は自然光で明るく、ガラス窓からは外の景色が見渡せる。併設施設との間の廊下に面した扉は開放しており、廊下を行きかう人の姿も見ることができ、開放感がある。室内には机とイス、ソファを配置し、台所と共用室が一緒になり、利用者は思い思いの場でくつろぐことができる。壁には、美術に興味のある利用者が製作したぬり絵や飾り、リース、手づくり作品、利用者の活動の写真等が飾ってある。室内の温度、湿度、換気等に配慮し居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望を伺いながら、工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族様の写真や愛用品を置いていただき居心地良く過ごしていただけるように配慮している。	ベット、机、椅子、ソファ、衣装ケース、洋服かけ、鏡台、ペン立て、洗面用具、手づくり作品、雑誌、ノート、手さげバッグ、小物入れ、化粧品、帽子、洋服など本人の使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいる。家族は寝具や衣服、シーツの交換、部屋の整理等に来所し、頻回に面会し利用者が居心地よく過ごせるように協力している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりに応じ安全かつ自立に寄り添える環境作りに努めている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム厚南

作成日：平成 30 年 6 月 22 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全ての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施が出来ていない。	全ての職員が緊急時の初期対応を身につけられるようにする。	応急手当や初期対応が不安なく行えるようにグループホーム合同研修会を開催したり、当グループホーム独自で勉強会を実施する。	1年
2	5	運営推進会議のメンバーに地域メンバーが少ない。	地域住民である民生委員や自治会長などにも運営推進会議に参加してもらえるようにする。	当施設の自治会長を通じて紹介してもらい、民生委員や自治会長にも出来る限り運営推進会議に参加してもらえるようにする。	1年
3	36	地域との協力体制が構築できていない。	地域の皆様と顔なじみの関係を構築できるようにする。	近隣を入居者と散歩等行う際に、挨拶を行い顔なじみになれるようにする。施設内の祭りやサロンの利用者とも積極的に会話を楽しめる環境を整える。	1年
4	4	全職員による外部評価の意義の理解と活用ができていない。	全職員に外部評価の意義の理解をしてもらうように取り組む。	外部評価での意見を全職員に説明し、意義を周知できるようにする。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。